





























































































































































































碑文

クモテイ(雲梯)の名称は、梅雨明け時、日の出と同時に東の空に高く湧き上がる入道雲の真柱が姿かたちとてある。
白浜の中にあつて、崖辺の広い大空を占めて満潮時になると波打ち際に狂風を卷て大自然に立ち向かつて、たゞ昔は、ノロ舟の囀を聞いたと云われていた。昭和三十三年の後半までは、遠い昔から伝わるノロ祭祀の神のオムケ、ヤオホリの神祭りの時に、クモテイ(雲梯)に大勢のガミ、ニンシヨ(神人)が盛り送迎の祭祀が行われた所であり、島の人々の信仰の中心となつてゐる。
然し、その後の港湾改修工事等により、クモテイ(雲梯)周辺の情景は様変わりしてゐる。
現在、岩の上部は地上に突き出ており、与路島の神聖な地として、今もその尊厳が破固されてゐるものである。
当合では、由緒あるこの地に碑を建て、故郷を懐念せんとするものである。

平成二十年(二〇〇八)四月吉日
吉仁屋与路会創立六十周年記念



























































































































